

## 第 45 回 実技セミナー基礎コース in 神奈川 開催報告

【開催日時】平成 29 年 3 月 5 日（日）

プレセミナー 11：40～12：30

実技セミナー 13：00～17：00

【開催場所】国際医療福祉大学 小田原保健医療学部

【主催】NPO 法人 口から食べる幸せを守る会®

【共催】日清オイリオグループ株式会社 ラックヘルスケア株式会社

【後援】株式会社クリニコ 渡辺商事株式会社 株式会社大塚製薬工場

【開催目的】

ベッド上および車いす上での基本姿勢を習得し、食べる力を引き出せるベッドサイドスクリーニング評価、安全・安楽・自立性・効率性を意図した基本的な食事介助技術について演習を通して学んでいただく事を目的に開催する。

【プログラム】

～プレセミナー～ 11：40～12：30

「口から食べるバランスチャート（KTBC）について」講師：小山珠美

～実技セミナー～ 13：00～17：00

1. 全体講義（講師：竹市美加）

・口から食べることをサポートするための包括的スキル

-KT バランスチャートの活用と支援-について

・安全、安楽、自立を促すための食事介助の基本

（五感を活用した食事介助方法、セルフケア能力を高める介助技術）

2. 全体講義（講師：金志純）

・安全に食べられるためのベッドサイドスクリーニング評価および段階的ステップアップ

3. 演習①

・ベッドサイドスクリーニング評価

4. 演習②

・摂食嚥下能力、体幹角度、食物形態、セルフケア能力を高めるための食事介助方法

5. 演習③

・車椅子での食事介助の基本姿勢、セルフケア能力を高めるための食事介助

6. まとめ・質疑応答

【KTSM 実技認定者（講師・アドバイザー）一覧】＜敬称略＞

氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
小山珠美	NPO 法人口から食べる幸せを守る会® 理事長 JA 神奈川県厚生連伊勢原協同病院	看護師 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者
竹市美加	NPO 法人口から食べる幸せを守る会®副理事長 ナチュラルスマイル西宮北口歯科	摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者
一瀬浩隆	NPO 法人口から食べる幸せを守る会®理事 あい訪問歯科クリニック	歯科医師 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者
黄金井裕	NPO 法人口から食べる幸せを守る会®理事 日本医科大学多摩永山病院	言語聴覚士 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者
金 志純	社会福祉法人鶴風会 東京小児療育病院	摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者
甲斐明美	医療法人社団 東山会 調布東山病院	摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者
砂山明子	都立駒込病院	摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者
上野美幸	山梨市立牧丘病院	看護師 KTSM 実技認定者
大谷愛子	仙川の杜デンタルクリニック	歯科医師 KTSM 実技認定者
山下ゆかり	医療法人社団永研会 ちとせデンタルクリニック	歯科衛生士 KTSM 実技認定者
佐藤作喜子	JA 神奈川県厚生連伊勢原協同病院	管理栄養士 KTSM 実技認定者
剣持君代	群馬リハビリテーション病院	看護師 KTSM 実技認定者
山廣芳枝	大阪府済生会中津病院	摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者
井上久美子	ナチュラルスマイル西宮北口歯科	管理栄養士 KTSM 実技認定者
齋健太郎	ソフィア総合ナースステーション城南	摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者

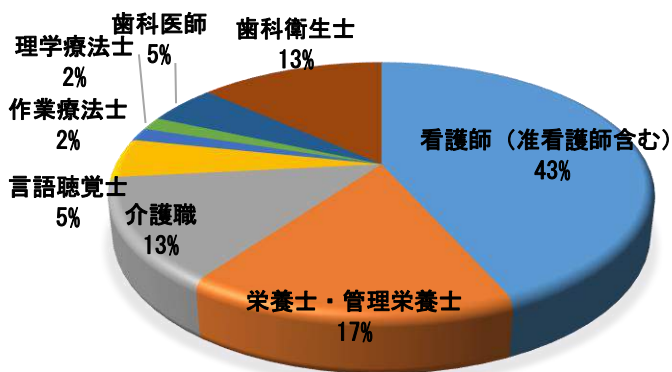
【セミナーサポーター一覧】 <敬称略>

氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
石黒慎一	JA 神奈川県厚生連 伊勢原協同病院	看護師
坂井祐子	JA 神奈川県厚生連 伊勢原協同病院	看護師
中村葉	介護老人保健施設 ほほえみの丘	管理栄養士
井上佑司	ふれあい町田ホスピタル	言語聴覚士
鈴木順理	静寿会 おやまの杜	看護師
渡辺百香	JA 神奈川県厚生連 伊勢原協同病院	看護師

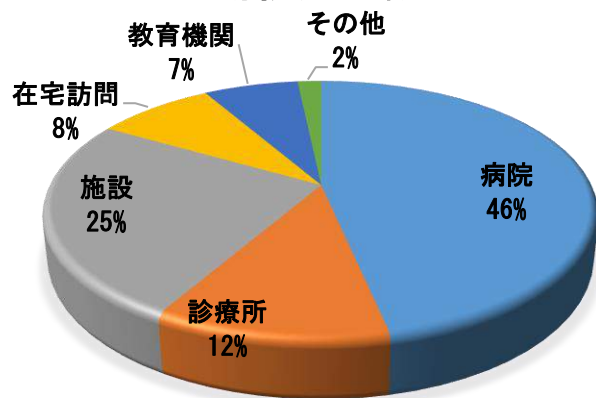
【実技セミナー参加者数】 65 名

【アンケート回答者数】 60 名 （回収率：92.3%）

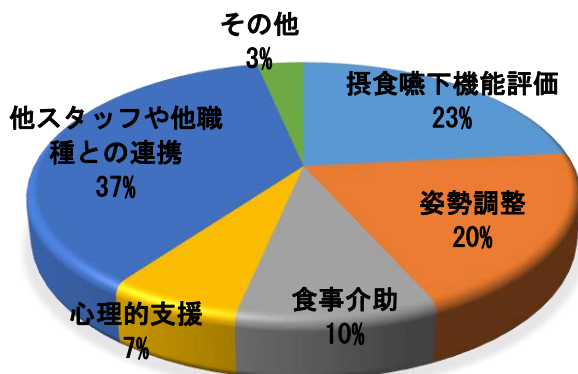
職種内訳



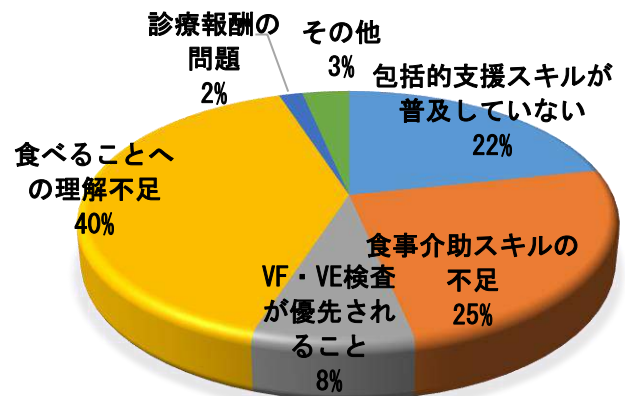
勤務先内訳



Q. 食べる支援で何が難しいですか？



Q. 口から食べることを阻害している大きな要因は何だと思いますか？



## ～セミナーに参加した感想や自分を振り返って～（一部紹介）

・患者さんの身になって、という本当の意味を噛み締めました。自分が患者さんの目となり手となって姿勢調整や介助をしているか、臨床の場で問い直してみたいと思っています。小山先生の熱意のこもったお話や指導で背筋が伸び、アドバイザーの方々の温かい助言に励まされ、同グループになった方たちと情報交換出来、本当に有意義な時間でした。今回は「食べられるのに食べさせてもらっていない」という患者さんにスポットが当たっていたと思いますが、一度良くなった方でも、またいつかは老衰や認知症の末期で本当に食べられなく日も来ると思います。その時私たちはどんな風に患者さんやご家族をサポートしていくべきなのか、是非どこかでお話を伺えればと思います。（病院勤務 言語聴覚士）

・初めてポジショニングと食事介助を体験し、患者さんの目線や気持ちに少し近づけたように思いました。特に体が安定しないと、食事に集中できないことを実感することができ、姿勢の大切さを改めて知りました。頸部聴診や背抜きなども実際の現場では行ったことがなかったので、非常に貴重な経験となりました。セミナーの最後に紹介して頂いた症例を見て、食欲が湧くような食事を提供できるような環境を作るのも必要だと思いました。（病院勤務 管理栄養士）

・実技を通じて、看護師としての細やかな心遣いを感じました。自己の看護を振り返り、摂食嚥下障害看護だけでなく、日々の看護についても考えさせられるセミナーとなりました。実技の取得については、回数を重ね、確実に実施できるよう努力していきたいと思っています。ありがとうございました。（病院勤務 看護師）

・姿勢の調整で筋の緊張がこれだけ違うのかと気づくことができました。体が傾かないようにとタオルをはさんだりはしていましたが、タオルの使い方一つでもっと気を使っていこうと思います。食事については、障がいがある方だと準備期・口腔期について高齢者・中途障がい者とは違った面があり、今日学んだことをベースに工夫していきたいと考えます。摂食嚥下チームでKTBCを使ってみようと話しました。水飲みテストやFTもトライしてみます。皆様ありがとうございました。

（診療所勤務 歯科衛生士）

・食べる支援は広がっていますが、医師の協力が最も重要であるにも関わらず、最も難しいと感じました。食事介助技術に関しては、患者さんに自分を投影されたように細かな配慮をしていることに介助の奥深さを痛感しました。（病院勤務 看護師）

・今まで疑問を持たずに行っていた介助方法が、その方の身になって考えた時に適切だったかどうかを、問い直すいいキッカケになりました。（施設勤務 理学療法士）

・今回の研修に参加させていただき、食事をする楽しさが、日常の介助の中で忘れかけていたことを感じました。そして介助をすることを業務としてではなく、入居者の方が食べたいと思う働きかけをしっかりと行っていかなくてはいけないと思いました。特養なので、レベルアップをしていくことは困難なことなのかもしれませんが、食べる楽しさを感じていただけるよう関わっていければと思います。

（施設勤務 作業療法士）

・食事姿勢がとても大事な事だと改めて感じました。食べ物を見せながら視線を外させない、すぐに実践していこうと思います。また機会があれば是非参加したいと思います。ありがとうございました。

(施設勤務 介護職)

・今までは上辺だけの治療のみで機能的にきちんと機能しているのか、摂食嚥下まで上手く機能させているのかを考えていなかったことに気付かされた。もっと歯科医師として踏み込んでよいこと、踏み込まなければならないことにも気づかせてもらい感謝です。自分の診療に役立てていきたいし、広げていかなければならないと痛感したので行動につなげていきたい。また、自分のレベルも向上しなければと感じた。(診療所勤務 歯科医師)

・小山先生、アドバイザーの方々に直接指導頂き、緊張感あふれる中、自分自身の知識や技術の足りなさに気づくことができました。私の勤務する病院は要介護高齢者が多く、誤嚥性肺炎で入院する患者さんは少なくありません。そして、必ず禁飲食入院となります。約1.2週間は禁食であり、症状が安定し、食事が開始されても嚥下機能の低下が著明にあり、経口栄養へ移行できない場合も少なくありません。介助場面で悩んだ時は、いつも小山先生の参考書を読み、学び、参考にし、介助方法を取り入れています。参考書で勉強し、頭に入っているはずが、今回の研修で実際に行くと、スクリーニング、食事介助、シーティング、ポジション調整等、自分が出来ていないことに気づきました。患者さんの視線の位置、介助者の位置、肘の高さ、姿勢、スプーン操作等、細かな配慮や、気づきが患者さんの安全・安楽な食事につながるのだと、あらためて気づくことが沢山ありました。少しの妥協も許してはいけないのだと思いました。アドバイザーさんに指導されたこと、小山先生の指導を振り返り、食事姿勢をもう一度見直し、食事介助をしたいと思います。去年から食事介助の勉強会を開いています。今年は実技を交えて勉強会を開く予定です。今回の研修で得たことを活かして、スタッフと共有したいと思います。NSTでは、KTバランスチャートを取り入れる方向で考えています。一人でも多く患者さんが安全に経口栄養へ移行できるよう、支援していきたいと思います。今後も、小山先生のセミナーに参加し、包括的な食支援技術を身につけていきたいと考えます。(病院勤務 看護師)

・日々の往診の中で、ひとりの患者さんに対しゆっくり向き合える時間がなかなかとれないので、もう少し時間の余裕が欲しいと感じました。そのうえで、今回学んだ事を少しでも患者さんのお役にたてるように活かしていきたいと思いました。(診療所勤務 歯科衛生士)

・逆に食事介助される身になると、食べさせる難しさを実感したし当院のほとんどのスタッフが誤嚥させる介助している事に絶望してしまいました。小山先生が、おっしゃった患者の手になる様、実践します。名古屋の摂食嚥下認定看護師の教授されていた時からあこがれていた、小山先生に叱責されとてもはげみになり、先生の熱さを感じました。当院ではいとも簡単に経口摂取を禁止し経管栄養に移行していくのが当たり前ですが、小山先生の考えに賛同してくれている医師もいるので、その医師やスタッフを巻き込みながら、まずは、この研修を伝達していきたいと思います。(病院勤務 看護師)

・知識だけを蓄積するのではなく、熟練した技術が必要だと感じた。日々継続して技術を習得していきたい。(教育機関勤務 看護師)

・3回目の参加でした。3回目にしてようやくスプーンの運び方のコツがつかめた感触があり、その手ごたえが嬉しかったです。一方で、入院中の高齢者は四肢の拘縮や頸部が後屈位で拘縮があったりとポジショニングが本当に難しく悩むケースが多いです。しかし、この研修ではアドバイザーの方が多くのノウハウを指導して下さるので、現場で働く私たちにとっては、知識もちろんですが、この技術を知ってほしい、身につけてほしいと本当に思います。そのためにも私自身もっと自分の技術を磨き、一緒に働くスタッフに教育していけるよう頑張りたいと思いました。セミナーに参加させていただく度に、小山先生をはじめスタッフの皆様の熱意や頑張りは伝わってきて、尊敬と憧れの思いを抱いています。いつか一緒に頑張れる仲間になれたらと思いました。(病院勤務 看護師)

・実際に患者体験を通して食事介助をされてみて初めて分かることがたくさんありました。ポジショニングでもより安定する方法を学び、食事介助の方法も実際に食べさせてもらうことでアドバイザーさんと研修生とでは大きく違うことを経験することができました。(病院勤務 管理栄養士)

・嚥下機能評価は言語聴覚士に任せきりになっており、自分は全く評価技術を持ち合わせていなかった。ポジショニングはリハビリからの指示に基づき実施していたが、細かなやり方や配慮は全然間違っていた。知識を得ても実践しなければ忘れてしまい、技術は習得・向上しないことを痛感し、実践の大切さを感じた。(病院勤務 看護師)

・KT バランスチャートを使用して患者の状態をアセスメントすることで、必要なケアがみえてくるので、活用していきたいと思いました。また、食事姿勢や介助方法の自分の方法の過ちに気付いたので、早速改善し他スタッフにも伝達していきたいと思いました。開催していただき、ありがとうございました。(病院勤務 看護師)

・今回初めて参加させていただきました。関わる医療者によって患者様の未来が大きく変わって行くことを深刻に受け止めました。まだまだ自分にはできないことばかりですが、現場での問題点は少し見えるようになってきている気がします。これから、患者様や家族様が望まれる方向と一緒に目指して挑んで行けるスキルをつけていきたいです。是非また参加させていただきたいと思います。

(病院勤務 管理栄養士)

・食事をするための準備姿勢、使用スプーン、介助方法、全てにおいて知識と技術が不足していました…。まさに目からウロコ、でした。今までしてきた事を思うと看護師として、恥ずかしくなりました。患者さん役を体験した事で、どういう介助だと楽なのか、食べづらいなのか、理解できました。食事介助の一連の動作や注意しなければいけない事は、食べる本人、相手の事をきちんと考えればわかる事、スムーズに動作し介助できるはず、と思いながらも、なかなか上手くいきませんでした。患者さんのためになるプロのケアとして提供できるようにしっかりと練習を重ねようと思います。本当に参加して良かったです。ありがとうございました。(病院勤務 看護師)

・セミナーを受講するまでは、食べることを支えると言いながらも、どこか他人事に感じていたと思います。小山先生が仰られた『自分らが行っている対応が、自分の愛する人や自身の将来に繋がっている』という言葉にハッとさせられました。包括的に評価できるよう、理論と技術をしっかり身に付けたいと考えています。今後ともご指導よろしくお願い致します。(在宅訪問 歯科衛生士)

・摂食嚥下のリハビリにはまず正しく評価する事が大事だと気づかされました。歯科やその他必要なスキルを身に付け、実践の場に出る際にはご本人、ご家族に喜んでもらえる支援を行いたいと思いました。(診療所勤務 歯科医師)

・今までの自分の食事介助や嚥下評価がきちんとできていなかったことに勉強不足を感じました。知識、技術をもっと学んでいかなければと痛感しました。一人でも多くの方の口から食べるを支えるために、学び、振り返りをして、他職種やスタッフと研修会をしていきたいとさらに考えました。(病院勤務 看護師)

・とても有意義なセミナーだと思いましたが、出来る事ならもう少し実技の時間を取って欲しかったです。実際に経験しないと分からない事がありますが、患者役として介助される側を経験出来るのは貴重な経験だと思います。日常業務の中で何気なく行っている食事介助が利用者さんにとって、どの様に受け取られているのか？食事介助で自分に足りない事は何なのか？どうしたらもっと楽しく、美味しく食べてもらえるのか？今まで以上に深く考える様になりましたし、一緒に働く人達にも同じように、どうしたら楽しく美味しく、安全に食べてもらえるのかを伴に考え伝えて行きたいと思いました。また是非とも参加したいです。(施設勤務 介護職)

・実技を通し、沢山の技術を学ぶことが出来ました。臨床にすぐに活かし、技術習得、研鑽をしていきます。何回か受けて、技術アップを図っていきたくと思いました。ありがとうございます。(病院勤務 言語聴覚士)

・改めて食べることの大切さを実感したとともに、私たち看護師が食べる能力を阻害している現状に気づき、まずは自分の意識を変えて、チームを説得できる知識とスキルを身につける必要性を感じました。自分だったら、家族だったらという視点で関わってきたつもりでしたが、医師の指示を重視していたことにも気づき、やはり専門的な知識を身につけ根拠を持って意見することで、食事支援を看護師が主体的に実施できるようになりたいと思います。(病院勤務 看護師)

・患者役を体験し、姿勢調整や物品配置、介助動作一つなど、すべてにおいて基礎からできていないことに気づきました。第三者となり、評価を重ねながらの技術を磨いていきたくと思います。また、研修補助スタッフの個々の力が演習レベルを左右するのだということも改めて感じました。(病院勤務 看護師)

アンケートへのご協力  
ありがとうございました

【セミナー風景】



適切なポジショニングは安全に食べるための第一歩！  
より安全に食べてもらうために皆さん熱心に取り組まれています

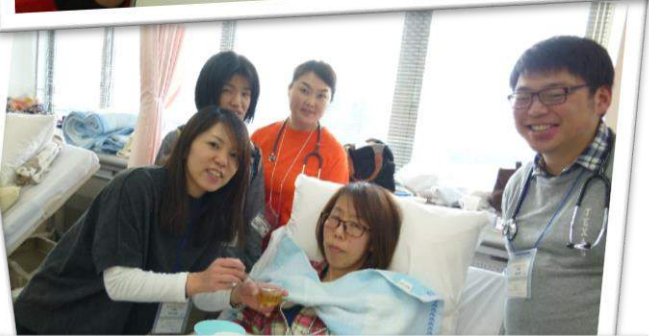


演習では、患者役も経験することで、新たな気づきが得られると好評身をもって体験する事で、自身のスキル向上へとつながります



～一緒に演習に取り組んだみんな～





お手伝いサポーターの皆さん（前方）  
そして、いつもご協力くださる  
ラックヘルスケア株式会社 様  
日清オイリオグループ株式会社 様  
（後方）  
ご協力ありがとうございました

# 第45回実技セミナー in 神奈川

**ご参加ありがとうございました！**

